

【新改訳改訂第3版】 **マタイの福音書**

27:32 そして、彼らが出て行くと、シモンというクレネ人を見つけたので、彼らは、この人にイエスの十字架を、むりやりに背負わせた。

27:33 **ゴルゴタという所**(「どくろ」と言われている場所)に来てから、

27:34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。

27:35 こうして、イエスを十字架につけてから、彼らはくじを引いて、イエスの着物を分け、

27:36 そこにすわって、イエスの見張りをした。

27:37 また、イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。

27:38 そのとき、イエスといっしょに、ふたりの強盗が、ひとり右に、ひとり左に、十字架につけられた。

27:39 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって、

27:40 言った。「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い。」

27:41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけって言った。

27:42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。」

27:43 彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」

27:44 イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった。

【新改訳改訂第3版】 **マルコの福音書**

15:21 そこへ、アレキサンデルとルポスとの父で、シモンというクレネ人が、いなかから出て来て通りかかったので、彼らはイエスの十字架を、むりやりに彼に背負わせた。

15:22 そして、彼らはイエスを**ゴルゴタの場所**(訳すと、「どくろ」の場所)へ連れて行った。

15:23 そして彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒をイエスに与えようとしたが、イエスはお飲みにならなかった。

15:24 それから、彼らは、イエスを十字架につけた。そして、だれが何を取るかをくじ引きで決めたくらんで、イエスの着物を分けた。

15:25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。

15:26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。

15:27 また彼らは、イエスとともにふたりの強盗を、ひとり右に、ひとり左に、十字架につけた。

15:29 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おお、神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。」

15:30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」

15:31 また、祭司長たちも同じように、律法学者たちといっしょになって、イエスをあざけって言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」

15:32 キリスト、イスラエルの王さま。今、十字架から降りてもらおうか。われわれは、それを見たら信じるから。」また、イエスといっしょに十字架につけられた者たちもイエスをののしった。

【新改訳改訂第3版】 **ルカの福音書**

23:26 彼らは、イエスを引いて行く途中、いなかから出て来たシモンというクレネ人をつかまえ、この人に十字架を負わせてイエスのうしろから運ばせた。

23:27 大ぜいの民衆やイエスのことを嘆き悲しむ女たちの群れが、イエスのあとについて行った。

23:28 しかしイエスは、女たちのほうに向いて、こう言われた。「エルサレムの娘たち。わたしのことで泣いてはいけない。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのことのために泣きなさい。」

23:29 なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は、幸いだ』と言う日が来るのですから。

23:30 そのとき、人々は山に向かって、『われわれの上に倒れかかってくれ』と言い、丘に向かって、『われわれをおおってくれ』と言い始めます。

23:31 彼らが生木にこのようなことをするのなら、枯れ木には、いったい、何が起こるでしょう。」

23:32 ほかにもふたりの犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために、引かれて行った。

23:33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとりは右に、ひとりは左に。

19:17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所(ヘブル語でゴルゴタと言われる)に出て行かれた。

19:18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真ん中にしてであった。

19:19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いてあった。

19:20 それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。

19:21 そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください」と言った。

19:22 ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」

19:23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

19:24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた」という聖書が成就するためであった。

ゴルゴタについて

ウヒョン著

「主の道を辿って」319～323頁

●今も、多くのクリスチャンがイエス様の足跡を辿り、エルサレム城の西側にある「ヴィア・ドロローサ」と「聖墳墓教会」を訪ねます。そこはイエス様が十字架を背負い歩まれた道として、また、死なれたゴルゴタとして知られています。そこには全世界からイエス様の足跡を訪ねてくる巡礼者たちで溢れています。ほとんどの人が、そこがイエス様の死なれた所だと知っています。しかし私は、最近聖書を研究していた時、ゴルゴタはそこではないことに気づきました。もちろん、プロテスタントの有識者たちはカトリックの聖地であるその場所ではなく、「園の墓」という所を重視します。どくろのような形をした小さな山で古代の墓が発掘されたのだと思っているようですが、そこもイエス様が死なれた場所ではありません。

結論から言うなら、「ゴルゴタ」は「オリブ山」にあります。これは私にとって非常に衝撃的なことでした。イスラエルに来て撮影をし、祈りながら聖書を研究する中で、聖霊様がそのことに気づかせて下さいました。二千年近く、誰もがそのように思ってきた場所を否定することは簡単なことではありませんが、重要なのは「伝統」ではなく、「神様のみことば」です。私たちにはこの態度が最も重要なのです。聖書は明らかにゴルゴタがオリブ山だと教えている、と私は信じます。ゴルゴタは私たちの主イエス様が世の罪を背負い死なれた場所であり、その正確な位置を知ることは大変大きな意味があります。

まず知らなくてはならない情報は、現

在知られている「聖墳墓教会」は、ローマカトリックを生んだコンスタンティヌスが夢でイエス様が死なれた場所として啓示を受けたということです。それで、彼の母ヘレナがその場所に教会を建て、現在まで続いてきているのです。彼は当時エルサレムの多くの信仰者の反対にもかかわらず、自分の啓示に従って「ヴィーナス神殿跡」に聖墳墓教会を建てたのです。また、十字架を負って行かれた道とされる「ヴィア・ドロローサ（悲しみの道）」も、十字軍の戦争以後に聖地巡礼者のために造られたコースです。私たちは何ら疑うことなく、それをそのまま信じています。しかし、たとえコンスタンティヌスが自分なりの啓示を受けたとしても、このようなことは聖書的な根拠を度外視したものです。特に、彼とヘレナが自分たちなりの情熱で現在の聖地と呼ばれる場所を、伝承を参照にして決めましたが、聖書に反する多くの問題があります。とすれば、聖書が語る「ゴルゴタ」とはどんな場所なのでしょう。

私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕える者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。ヘブル人への手紙一三章一〇～一二節

ヘブル人への手紙の記者のこの記録は、大変重要な情報を提供してくれます。これは初代教会の弟子たちの観点です。彼らは聖書によって罪のためのいけにえをどこでほふるかについて、正確な概念を持っていました。そしてそれは、十字架を負って私たちの罪の身代わりになら

れたイエス様の道を指し示すものだと言っています。イエス様はその供えのいけにえのように十字架を負い、「門の外」で死なれたのです。ゴルゴタは「門の外」です。この部分についての学者たちの見解によれば、少なくとも一世紀のエルサレムの人々は、子どもでも「門の外」のいけにえを焼く場所がどこであるかを知っていたそうです。今の私たちは、長い間ローマカトリックの伝統によって覆われ、まるで常識のようにになっている伝統（「聖墳墓教会」がイエスの死なれたゴルゴタだとする見解）に縛られているのです。エゼキエルは、罪のためのいけにえが捧げられる場所は定められていると言っています。

またあなたは、罪のためのいけにえの雄牛を取り、これを聖所の外の宮の一定の所で焼かなければならない。エゼキエル書四三章二一節

イエス様が私たちを救うことができたのは、「罪のためのいけにえの羊」としてご自身の血を捧げられたからですが、そのいけにえを火で焼く所はどこでも良いわけではありません。他のいけにえは神殿の入り口や祭壇で焼かれますが、罪のためのいけにえは、必ず、神殿の外の「定められた場所」でほふられ、焼かれなくてはなりません。その場所をヘブライ語で「ミフカードの祭壇」(Miphkad Altar)と呼びます。イエス様の時代の資料を調べてみると、これは聖所の外に位置し、「神殿の外の祭壇」(Outward Temple)と呼ばれる所です。私はヘロデ時代の神殿に関する資料を多く探してみました。すると、その当時は神殿からオリブ山まで橋がかけられており、その橋の終わりにこの祭壇があることが分かりました。資料によれば、そこで「赤い雌牛」をほふったとあります。この場所

は先にも述べた、罪のためのいけにえを焼く所です。

その雄牛の全部を、宿営の外のきよい所、すなわち灰捨て場に運び出し、たきぎの火で焼くこと。これは灰捨て場で焼かなければならない。レビ記四章十二節

この場所を「ミフカード」(Miphkad)と呼んだのです。ところが、その言葉は、「定められた場所(一定の場所)」という意味の他に、「数を数えること(人口調査)」という意味も持っています。この二つの意味が実は「ゴルゴタ」の位置と意味を表しているのです。

・・・

五

324～331 頁

イスラエル人の全会衆を、氏族ごとに父祖の家ごとに調べ、すべての男子の名をひとりひとり数えて人口調査をせよ。民数記一章二節

神様は出エジプトの後、イスラエルの二十歳以上、戦いに出ることのできる男性の数を把握させました。ここの「ひとりひとり数える(人口調査)」という言葉は、ヘブライ語の「グルゴレット」が使われています。この「グルゴレット」には「頭蓋骨」という意味もあります。先ほどの、罪のためのいけにえを焼く「定められた場所」は「ミフカード」で、「数を数えること(人口調査)」という意味もあり、それは「頭蓋骨を数えること」(グルゴレット)でもあるのです。このヘブライ語の「グルゴレット」がアラム語に音訳されたのが「ゴルゴタ」です。ですから、「ゴルゴタ」はまさに「定められた場所」なのです。

.....

必ず、ゴルゴタは東側の宿営の外でなければならず、そこは神殿から必ず「二千キュビト」(約九百メートル)以上離れた場所ではなくてはなりません。当時、十字架刑を受ける極悪人を城の中で処刑することはできませんでした。必ず「宿営の外」で刑が執行されました。私はその距離を、インターネットの衛星プログラムを通して測ってみました。現在の聖墳墓教会は、西側の方向にあるという問題もありますが、神殿の裏から二百メートルも離れていません。「園の墓」も同様です。東側の方向へ二千キュビトを測ってみると、正確に「オリーブ山頂上」の付近でした。私は戦慄を覚えるほど驚きました。ダビデの時代、そこは「主を礼拝する祭壇」があった所なのです。